

りっぷる Ripple

エスコープ大阪機関紙
第190号
18.10.29

表紙

・顔を見て意見の言い合える関係こそが
今まで続いてきた理由

P2

・(株)ウインナークラブ設立30周年記念パ
ーティー

P3

・活動報告 さようなら原発9.17全国集
会/ウインナークラブ30周年記念企画
「豚肉料理学習会」/9月豚肉利用推進
・私たちのエネルギーを考える!

P4

・台風21号による被害報告
・エコロ給付状況報告
・子育てひろば案内
・理事会報告・おたよりネット・編集後記

顔を見て 意見の言い合える関係こそが 今まで続いてきた理由

1988年に豚肉生産者「(有)石井養豚センター」とエスコープ大阪が共同出資して設立した「(株)ウインナークラブ」から精肉の出荷が開始されて30年。ウインナークラブ設立までの道のりは平坦ではありませんでした。それを乗り越えてこられたのは、「自分たちで安心して食べられる豚肉を作り出し、家族に食べさせたい」という組合員の熱い想いです。これからもずっとこの豚肉を食べ続け、子どもたちに引き継いでいくためには、私たちはどうしていけばいいのでしょうか。今回は、ウインナークラブ社長の近藤智佐恵さんに現在の養豚の現状を伺い、ウインナークラブとエスコープ大阪のこれからについて話しました。

(聞き手:消費担当理事 北辻 美樹)



株式会社ウインナークラブ
代表取締役社長

近藤 智佐恵さん

存続の危機 後継者の問題は…

北辻 ウインナークラブ設立30周年記念パーティーで、多くの人に祝福されている様子を拝見し、周りにいる人たちの関係性の中で培ってきた歴史を感じました。出席者の祝辞の中で、日本で30年続く企業は1%未満という厳しい世界の中で生き抜いてこられたことや、後継者不足や輸入豚肉増加に伴い、養豚場の廃業が増えている現状についてどのように感じられていますか。

近藤 おかげさまで30周年を迎えることができ、ありがとうございます。ウインナークラブは、生産者と消費者が「安心して食べられる豚肉を作りたい・食べたい」という共通の想いで設立されたことが今日まで続けてこられた一番の要因だと思います。作り手と食べ手の想いのどちらが欠けていても、ここまで続けられなかったでしょう。

養豚の世界は、昔は小規模の家族経営が多かったのです

が、高度経済成長に伴う効率化や後継者不足に伴い次第に廃れていきました。徳島県では昭和36年に6千860戸だった養豚農家は平成28年には25戸に減りました。このような厳しい状況の中でやってこられたのは、エスコープ大阪と出会ったからだと思っています。

北辻 ウインナークラブも若い従業員の方々が登場していませんね。

近藤 30周年記念パーティーで司会を務めた岡崎くんをはじめ、若い従業員もがんばっています。彼はエスコープ大阪へ2年間出向し、頼もしくなつて帰ってきました。消費者との交流を担ってもらいます。農場の石井養豚センターは私の息子が農場長の後をうまく引き継げるようがんばっています。

これからも 心を通わせて つなげていきたい

北辻 私たち組合員はこの豚肉を、「おいしいな」と食べているだけでは続かないかと思っています。生産者と意見を話し合つて、その時々課題を解決しながら進めていかないといけないと思います。

近藤 その通りだと思います。お互いに顔を見て言い合える関係が大切だと思います。ウインナークラブが設立された

頃の組合員さんはずごかったですから。明石海峡大橋もまだなく、船で徳島県まで来ていました。そこまでして伝えたい想い、情熱があった。当時の豚肉は抗生物質の多用などいろいろな問題があつて、「安全な豚肉が食べたい」という想いが情熱に変わったのだと思います。食をとりまく問題は今もあり、養豚でも同じで育て方や環境で大きく味も変わります。市場の豚肉はどんな飼いやっているのかわかりません。輸入豚肉などは特にそうです。

直接会つて 声をかけてくれることが 一番の励みになります

北辻 組合員との交流が一番印象に残っていることは何ですか。

近藤 生協祭などで組合員さんと直接話をする事です。「食べてるよ」とか「おいしいよ」とか言われると「ああ、がんばらないかん」と励みになります。

北辻 直接気持ちを伝えられるという事は、私たち消費者にとつてもうれしいことです。心を通わす、というのは大切ですね。

最近では豚の病気対策などの理由で養豚現場の見学ができません。残念ですが、これからの産地訪問や交流について何かお考えはありますか。

近藤 ウイルスや菌など目に見えないものへの対策が必要な時代になりました。直接立ち入ることができないところは映像で紹介しています。ウインナークラブの工場も昔は中に入ってもらっていましたが、異物混入の可能性があるので現在は窓越しで作業を見てもらっています。

交流会などで何か疑問に思うことがあつたらどんな質問してください。前もつて聞きたいことを知らせてもらえれば、しっかりと答えたいと思います。以前はお子さんにウインナー作りを体験してもらい、「リーベフラウ」でバーベキューをして食べるということもやりました。交流会の内容については相談していただければいろいろできることがあると思います。

北辻 交流会でも組合員が積極的に生産者と対話ができるようにしていきたいと思えます。新しい組合員も増える中、なぜエスコープ大阪が豚肉の産直関係を継続しているのかを丁寧に伝え、生産者と組合員が想いを共有しながら関係を大切に、ウインナークラブと共に50年、100年と歩んでいきたいと思っています。

※リーベフラウ:「自然派ハム工房リーベフラウ」徳島県名西郡石井町(ウインナークラブのすぐ近く)にある(有)石井養豚センターが豚肉や加工品などを販売するお店

(株)ウインナークラブ設立 30周年記念パーティー

9月9日(日)、1988年に誕生した「(株)ウインナークラブ」の設立30周年記念パーティーが徳島県名西郡石井町で開催されました。あいにくの雨模様でしたが、エスコープ大阪からは38名が出席し、その他関西の生活クラブ生協の組合員と役職員、生活クラブの生産者団体「生活クラブ親生会」や関係団体が参加し、ウインナークラブ従業員も併せて103名でお祝いしました。



30年間変わらぬ想い

記念式典では、ウインナークラブ代表取締役社長の近藤智佐恵さんが挨拶。設立当初は10数名の社員で出発し、組合員とウインナークラブ、「(有)石井養豚センター」のたゆまぬ努力の結果、30年間も続けられたのであり、お互いの思いでできた会社であることを話されました。

次にエスコープ大阪の岡理事長が「30周年を迎えることができたのは、皆さまの協力があったからこそ。順風満帆ではなかったが、どれも誰か欠けても今はなく、またこれからの組合員とウインナークラブ社員に期待している」と祝辞を述べました。

農場長の近藤保臣さんは、東北生協現、エスコープ大阪から声をかけられ取引が始まり、日本各地を回ってオランダ豚のベースとなる中ヨークシャー種を見つけ出すまでの苦労話や、10年前の豚舎の火災で1千頭近くの豚が焼死した際にはエスコープ大阪の組合員や職員からの励ましに勇気づけられ復興を果たしたことを語られ、「これからウインナークラブがどんなオンラインウインの花を咲かせるか楽しみにしている」とエールを送りました。



近藤 保臣さん

式典に出席されたウインナークラブ従業員の方々



人の関わりの中で成長しながら30周年を迎えられたのだと改めて思いました。ウインナークラブを作った組合員の情熱、想いを存続させていくことの大変さも感じました。



ウインナークラブとの 30年の歴史(抜粋)

1979年	最初の豚解体学習会を開催。組合員が「市場の豚肉は不安。自分たちで安心して食べられる豚肉を作り出そう」と活動を開始。まず豚を知るために豚解体学習会から始めた。この時は沖縄県産の豚を使用。1年間学習して、養豚の問題点を提起。
1980年	一頭買いを開始。
1981年	苦情や意見の検討・解決を図るために組合員5名で豚肉委員会を発足。
1982年	沖縄県産豚肉を扱っていた会社が倒産したため新しい生産者を探し、徳島の「(有)石井養豚センター」の近藤さんと出会う。
1988年	生産者(石井養豚センター近藤さん)と共同出資で(株)ウインナークラブを設立。精肉の出荷を開始。
1989年	無添加ハムとソーセージの加工・供給を開始。
1990年	生豚ブロック肉・冷凍スライス肉のカタログでの供給を開始。
1992年	料理本『保存版 豚肉料理 百一選』を作成。
2002年	『とんとんメイト』(5ブロック3ミンチ)を供給(登録制)開始。
2006年	組合員開発第1号『きりりポークウインナー (現、ウインナークラブのポークウインナー)』供給開始。
2007年	『生豚スライスセット』の供給(登録制)開始。
2008年	1月に豚舎の火災が発生。育成豚舎の2,000頭のうち約900頭を失うが、同年4月に供給を再開。
2009年	『ロースハムスライス』『あらびきウインナー』を組合員とウインナークラブによるプロジェクトで開発。ハムは初回の利用が3,000点を超える。
2010年	リキッド飼料を与えることができる新豚舎が完成。
2011年	エスコープ大阪と都市生活で「液状給餌」による豚肉の取り組みを開始。
2013年	生活クラブ関西6生協で「パイロダクト(*)給餌」の豚肉の取り組みを開始。*食品工場副産物
2015年	カタログ注文の精肉を冷蔵化。
2018年	★ウインナークラブ設立30周年★ 2月に料理本『豚肉料理 百一選 スライス編』が完成。 41週(10/15～19)企画で10,000点の利用を目標に、9月に利用推進月間を実施。*39週(10/1～5)の週間利用実績は4,329点。

バトンを受けた私たち

ウインナークラブの豚肉は、2013年から関西の生活クラブ6生協での取り組みとなりました。それぞれの生協から祝辞と共に、利用推進の取り組みについても話していただきました。

生活クラブ京都エル・コープでは、豚肉解体企画を500回開催し、その結果、生産者と産地への理解が深まっただけでなく、組合員同士の交流の場となって組織作りにも発展していったそうです。

生活クラブ都市生活は、以前取り扱っていた豚肉からウインナークラブの豚肉のみに移行した時、試食して味わってもらったことを主体としたウインナーパーティーを開催し、組合員のウインナークラブへの理解を深めてきたそうです。

生活クラブ奈良は、食べるだけの組合員から取り組みに参加する組合員に成長するためにも、まずは産地訪問や生産者交流をおこなって学習し、2千人の組合員一人ひとりにウインナークラブの豚肉の取り組みを浸透させていきたいと話されました。

東北生協時代からの組合員がまた種が成長してひろがり、今の組合員の元氣な活動の様子を感じられた時間になりました。

さらに利用を広げたい

ウインナークラブの記念事業は、消費地(大阪)と生産地(徳島)で交互に開催してきました。さらに躍進して40周年を大阪の地でおこなえるよう組合員を増やし食べる仲間を増やしていきます。今後は特に豚肉加工品の企画整理や新規消費材の開発に取り組みしていきたいと思えます。これからも組合員の力をあわせてウインナークラブをつくり上げていきましょう!!

エスコープ大阪組合員による発表の様子



31年目の新たな一歩を今日踏み出します。

解体実験?

「ウインナークラブができるまで」のスライドの一部



第4回 理事会報告 <9月5日>

【7月度決算報告】

- 供給高 2億2,323万円(前年同月比107.0%)
- 組合員数 19,514名(前月比2)
- 一人あたりの出資金 78,388円

【8月の放射能検査結果】

8月は連合消費材732検体、エスコープ大阪独自の消費材6検体の放射能検査を実施しました。生活クラブ自主基準を超えた検体はなく、すべての消費材を供給しました。

【協議事項】

- ①改選期に向けて
- ②2018年度温州みかんシーズン予約取り組み内容の確認
- ③登録推進みかん狩り企画(新加入者対象)の追加予算
- ④1月地場野菜利用推進月間
- ⑤2019年度活動「旬菜セット豆類の収穫手伝い」
- ⑥3月遺伝子組み換え反対運動推進月間
- ⑦7月生活クラブでんき推進月間取り組みのまとめ
- ⑧「生活クラブでんき」追加取り組み
- ⑨エスコープまつり2018について
- ⑩W.Co.WITHとの店舗運営委託契約
- ⑪20RY(2019年産米)菟おうみ米計画数(契約量)提案
- ⑫2018年度水産産地交流会の開催日と11月理事会の日程調整

【報告承認事項】

- ①次年度方針の立案に向けて(方針チームの確認)
- ②基幹システム開発費の増加に伴う分担額の変更
- ③共済月間の事務局まとめ
- ④7月理事会決議事項の修正(別表の漏れ)
- ⑤エスチャンネルの各地域の取り組み状況の共有
- ⑥泉北ニュータウン地域の「豚肉推進企画(ベーコン作り)」について



7月の集中豪雨で被害があった豊共園のみかん畑

特に今回の被害は、7月の集中豪雨による被災生産者にとってはダブルパンチとなるなど、長期にわたる影響が懸念される事態となっており、食べる力を結集して生産者を勇気づけていきたいと思います!!

生産者被害は、特に「豊共園」「菜食ファーム」で出ています。豊共園では7月の豪雨により一部園地で土砂崩れが発生し、畑として継続するかの判断を迫られる中で、台風によるみかんの木の倒木が多数起こるなど厳しい状況となっています。7月以降、支援として役員による援農も実施してきましたが、今後は木の植え替えなど必要になってきます。菜食ファームではハウスの倒壊など設備被害が甚大です。秋冬野菜の作付けも大幅に遅れているため、冬場の野菜の出荷量が大きく減る予測です。生活クラブ連合会として行っている西日本豪雨カンパ(台風21号による被害へも使途を変更)も使いながら、これからも食べ続けられるように生産者との関係をつくっていきます。

台風21号では、私たち生活クラブの関西6生協でも大きな被害が出ました。岸和田市広域にわたる停電が長時間続いたため、岸和田DC(個人別に仕分けするデリバリーセンター)の機能が止まり、火曜日コースの一部と水曜日コースの約1万世帯へ配達ができなくなり、ご迷惑をおかけしました。特に冷蔵・冷凍品は



台風21号で倒壊した菜食ファーム生産者のハウス

台風21号による被害報告

今年に入り西日本で、局地的な大雨や台風の大型化など生活基盤を脅かす天災が続いています。地球温暖化の影響が様々な形で現れ出しています。まず、9月4日(火)の台風21号により被害を受けられた組合員と生産者の皆様には心よりお見舞い申し上げます。「CO・OP共済」に加入されている方は、台風による住宅や家財に対する共済金等の給付があります(被害の程度によります)。配達担当やエスコープ大阪本部共済課(☎072-293-4660)までお問い合わせください。

停電により温度管理ができない為、多くを廃棄せざるを得ない状況となりました。緊急時の発電設備などの検討も必要かと思われ、大変大きな投資となるため現時点で有効的な対策は取れていません。

また、エスコープ大阪の配送車両が待機中に1台横転するなど物的な被害も発生しました。職員は軽微なケガで済みましたが、台風時の配送に関しては慎重に判断していくようにします。

専務理事 石川 雅可年

おたよりネット

「りっぷる」の感想やご意見、その他投稿は下の「おたよりネット」欄で。配達時に提出、あるいは店舗の専用BOXまで。

189号4面「生協の緊急時対応について」を読んで

紙面モニター Aさん

6月の大阪北部地震、9月の台風21号の風害など自然災害が頻繁に発生し、エスコープ大阪の対策はどうなっているのかと心配していました。大規模災害に遭遇したときの生協としてのあり方について「事業継続計画(BCP)」の策定、関西BCP会議の参加、安否確認システム、図上演習などが実施されていることを知り、少し安心しました。今後もスピーディーで丁寧な対応ができるように対策を充実して欲しいです。また、組合員の間での共助の体制も必要です。

189号2面「このみかんを作り続けて食べ続けるためには『シーズン予約』で利用を!」を読んで

紙面モニター Bさん

生協に加入して初めてのみかんシーズンがやってきました。大好きのみかんが減農薬、減化学肥料で作られ味も良いということで楽しみにしています。もちろんシーズン予約注文書はすぐに提出済みです。家族人数の割にたくさん注文したので食べ切れるか心配ですが頑張ります。

キトリ

Ripple おたよりネット

消費材の苦情についてはこの用紙でなく、電話またはメモで。この欄への投稿・ご意見は紙面でご紹介することがあります。

理事會事務局行き
190号(2018.10.29)

(ペンネームOK)

●地域名

●お名前

●組合員コード

●班名

編集後記

私が生協職員になった翌年にウイナークラブの『生豚ライスセット』が誕生し、私にとって初めての本格的なウイナークラブの利用推進取り組みだったと思います。何となくこだわっているという印象だけだった「ただの豚肉」から「特別な豚肉」に変わったタイミングでした。レシピを作ったり、職員だけで豚舎を訪問したり、一生懸命勉強しようとしていた頃を懐かしく思います。ウイナークラブが30周年を迎え、改めてこれまでの組合員の活動を振り返ると、私もまだまだ勉強が足りないと感じます。(K)

発行:生活協同組合エスコープ大阪 制作:W.Co パックプランニング

生活協同組合エスコープ大阪

〒590-0151 堺市南区小代727

TEL.072-293-4660 FAX.072-341-0022

http://s-osaka.seikatsuclub.coop/